

# 特集「海外特集号」を企画して

特集担当編集委員 七蔵司 和哉、大矢 仁史

中国、韓国、台湾に次ぐアジア新興国では人口増とともに急速な経済発展を遂げ、進出する日系企業も益々増える状況にある。特にASEAN諸国は、ここ数年に域内外で次々と結ばれたFTAのネットワーク（域内の「AFTA」と域外の国との「ASEAN+1」：日、韓、中、印、豪・NZなど）や今後妥結・発効する可能性の高いTPPも加えて、アジア太平洋地域における経済統合の流れの中央部に位置し、我が国の利益にも大きな影響をもたらすことが予想される。

このような背景の中、成長著しい東南アジア、マーケットとして有望なインドなどで粉体に関連した産業がどのような状況かを俯瞰する特集を組むこととした。今回はASEAN諸国の4ヶ国にインドを加えた5ヶ国について粉体分野を含めた現地事情をよく知る方々に執筆いただくことができた。是非これらの最新情報を今後の企業活動に活用していただきたい。

大阪大学名誉教授の辻裕先生には、「インド粉体事情」と題して、インドの国土や経済と日本企業の進出状況、ベースとなる学術研究の状況、インド国内の粉体機器メーカー、さらに日本の粉体関連企業が進出する魅力や注意すべき点などの多くの情報をご紹介いただいた。

チュラロンコン大学 粉体工学センターオブエクセレンス (CEPT) のタワチャイ チャリンパニトクル先生、ウィーラタッチ ポングルエングキアト研究員には、「タイ国粉体工学の20年：CEPTの視点から」と題して、これまでのタイの粉体工学の発展とその成果が産業用途への応用に役立ってきたこと、またその将来の展望についてご紹介いただいた。

東京農工大学大学院 工学研究院のウレット レンゴロ先生、インドネシア大学のムハマッド サラン氏には、「インドネシアの（粉体）技術事情」と題して、インドネシアの社会情勢から見た工学教育の人気と共に、粉体分野の研究情報、特に日本との関わりについてご紹介いただいた。

ペトロナス工科大学の上村芳三先生には、「マレーシアの一次産品事情」と題して、マレーシアのパーム油・天然ゴム、木材、石油・天然ガス、スズ、セメント、電力、米という主たる一次産品の歴史、現状と開発課題についてご紹介いただいた。

フィリピン味の素(株)の仲山達哉氏には、「食品分野から見たフィリピン粉体事情」と題して、日系の食品製造企業の視点でフィリピンの基本情報から始まり、粉体加工食品や調味料の特徴、フィリピン国内の粉体装置産業の状況、あわせて筆者の勤務する現地法人を例に粉体を扱う食品生産工程など新鮮な情報をご紹介いただいた。

いずれも、経済発展の著しい国の活力が感じられる情報である。これらを我が国の経済に取り込み、景気回復を着実なものとする際に、本特集が一助になれば幸いである。